

駆け込み需要が始まった

発表日：2014年2月28日（金）

～資産効果・住宅投資との相乗効果～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 熊野英生(Tel:03-5221-5223)

2014年1月の消費データでは、耐久消費財などで駆け込み需要が始まっていた。駆け込み買いは、婦人服や住宅設備の維持・修繕も増えていた。株価上昇の資産効果、冬のボーナス増、「寒さ」など気候要因との相乗効果もあるだろう。一方、パソコン・カメラなど教養娯楽用耐久財にはそうした効果が今はみられない。消費者は「どうせ買い替えないといけないもの」に限定して駆け込み買いをしている。

嵩上げされる個人消費

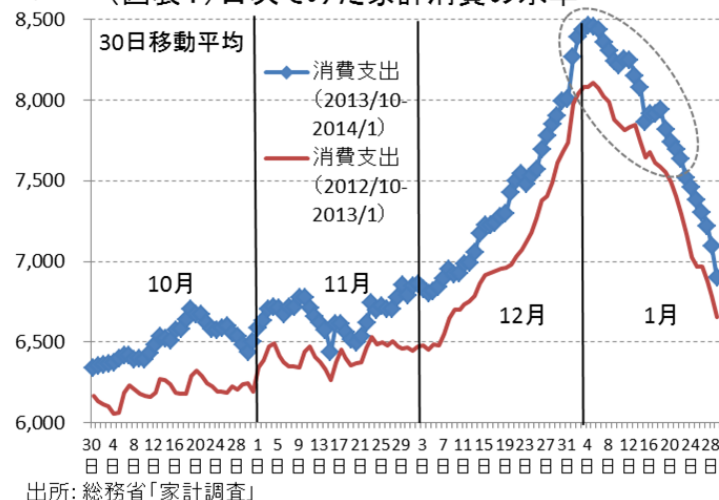
消費税率の引き上げを目前にして、消費統計には駆け込み需要がじわじわと表れてきている。2014年1月の総務省「家計調査」（2人以上・全世帯）は、全体の名目消費支出が前年比2.8%、物価上昇の要因を控除した実質消費支出が前年比1.1%（前月比1.6%）と大きく伸びた。ここでは、消費税増税を見越した駆け込み需要の影響が表れている。正確に言えば、株価上昇の資産効果、所得増、そして既往の住宅投資増に関連して消費が伸びる相乗効果として消費が増えている。

日次ベースで家計消費の推移をみると、前年に比べて消費の伸びが高くなったのは、3月末が近づく1月後半ではなく、季節的に消費支出が増える12月後半から1月前半であったことがわかる（図表1）。12月はボーナスが支給されて季節的に消費が増える時期である。さらに、日経平均株価の上昇は、2013年末にピークに達した。1月の消費支出は、12月のプラス要因に支えられて、月前半に強く表れた。駆け込み需要の影響は、そこに加っている（なお、1月後半は株価が1月24日から下落して資産効果の影響が弱まったと予想される）。

次に、駆け込み需要の様子を知るために、2014年1月の消費費目について、購入数量の前年比が高かった品目（除く食品）のランキングをつくってみた（図表2）。現時点で、駆け込み需要の最も強く表れているのは冷蔵庫だ。

購入数量の分析は、すべての消費費目を網羅していないので、不十分さは否めないが、

（図表1）日次でみた家計消費の水準

（図表2）購入数量が前年に比べて増加した品目ランキング
食料品を除く項目

	2014年1月	2013年12月	2013年11月
1 電気冷蔵庫	150.0	66.7	0.0
2 スカート	39.3	2.5	19.4
3 エアコンディショナ	33.3	75.0	0.0
4 婦人用スラックス	33.1	12.6	13.4
5 男子用上着	29.4	-5.0	9.5
6 ストーブ・温風ヒーター	28.6	-21.6	-3.1
7 背広服	28.6	0.0	-26.7
8 婦人服	27.5	-9.8	9.8
9 ハンドバッグ	25.5	11.1	10.2
10 自動車購入	25.0	25.0	0.0
11 男子用ズボン	24.7	4.5	-2.8
12 婦人靴	20.7	-4.9	-3.0
13 ネクタイ	20.0	0.0	21.1

出所：総務省「家計調査」

実態を考える有用な材料にはなるだろう（ここでは食料品は除いている）。実は、食料品を含めた品目で、ランキングの第一はメロン（前年比 4.3 倍）の数量増加である。統計の確率の変動の影響もあるので割り引いて考えるべきだろうが、食品のメロンが多く購入されたことはプチ贅沢を楽しむ家庭の姿を映し出している。おそらく、メロンの販売数量増加は駆け込み需要ではなく、株価上昇の資産効果をより強力に受けているだろう。

繰り返しになるが、食品以外のランキングで第一は、冷蔵庫（前年比 150.0%、購入世帯数 2.2 倍）である。冷蔵庫の購入平均単価は 11.9 万円（前年 9.1 万円）と大きな買い物である。こちらは、4 月以降に冷蔵庫を買い換えようとしていた消費者が前倒しで購入したと考えられる。

ランキングの第二位はスカート（同 39.2%）、第三位はエアコン（同 33.3%）、第四位は婦人用スラックス（同 33.1%）、第五位はストーブ（同 28.6%）である。婦人用洋服の内訳であるスカート、スラックスが上位に来るのは、駆け込み需要の特徴と言える。これらを眺めると、単純に駆け込み需要が起こっているだけではなく、所得感応度の高い品目が、冬のボーナス増加や株価上昇に反応して、買い急ぎを助長したのではないかと考えさせる。また、今冬の寒さも手伝って、エアコン・暖房器具が売れた側面もあるだろう。駆け込み需要は、それだけを切り出して独立要因として語ることはできず、資産効果・ボーナス増・気候変動と相まって、2014 年 1 月の個人消費を増やしたとみることができる。

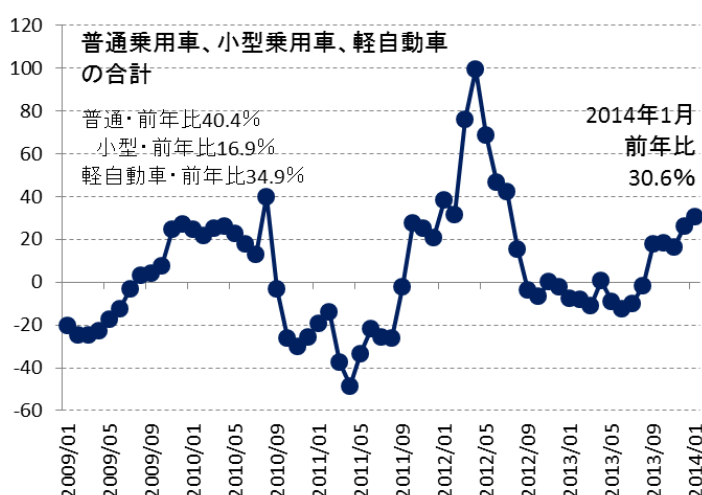
耐久消費財の消費増

駆け込み需要という点では、これまで自動車販売の急増がよく知られている。普通・小型・軽自動車の販売台数が 2013 年 10 月の前年同月比が 18.4%、11 月が 16.7%、12 月が 26.5%、1 月が 30.6%となっている（図表 3）。先の購入数量ランキングでは、第十位が自動車購入になっていた。

筆者の予想では、3 月末時点までに駆け込み需要は多くの品目に広がっていくだろうと考えている。主に増えそうなのは、やはり自動車、家電、そして百貨店の高級品の分野である。3 月末に近づくと、コメ、お酒、ミネラルウォーター、たばこ、冷凍食品といった保存のきく食料品、書籍、化粧品などといった身の回りの品々に広がっていくだろう。

先の購入数量のランキングでフォローできなかった品目について、金額の変化を追ってみる。家計調査の家庭用耐久財の支出金額は、冷蔵庫、エアコン以外にも、炊事用電気器具、炊事用ガス器具、冷暖房用器具で高い伸びがみられていた（図表 4）。ただし、12・11 月データにも大きな振れがあるので、確率の変動を含んでいて、

前年比% (図表3) 乗用車販売台数の伸び率



出所：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車連合会

(図表4) 家庭用耐久財の名目支出額の伸び率

	前年同月比%		
	2014年1月	2013年12月	2013年11月
家庭用耐久財	15.4	29.5	10.3
電子レンジ	-29.1	-43.5	21.3
炊事用電気器具	45.9	25.3	3.8
炊事用ガス器具	21.8	20.9	104.5
電気冷蔵庫	192.6	160.5	33.6
電気掃除機	-30.0	15.8	-16.7
電気洗濯機	-1.1	-0.8	-15.6
ミシン	-33.3	20.0	-61.0
他の家事用耐久財	-1.3	100.6	153.0
冷暖房用器具	20.3	29.5	-1.4
エアコンディショナ	43.4	151.6	2.5
ストーブ・温風ヒーター	-9.9	-10.2	14.8

出所：総務省「家計調査」

いずれも駆け込み需要のせいだとは断定しにくい面もある。

注意したいのは、物価上昇要因である。消費者物価指数の2014年1月の前年比は、家庭用耐久財の価格上昇が6.4%（2013年12月0.7%）と目立っていた。教養娯楽用耐久財も1月は4.7%（12月2.6%）と高かった。中国を生産拠点に製造されている耐久消費財では、円安・輸入物価上昇を受けて消費者物価も上がっている。耐久消費財の消費金額の増加はそうした要因も含んでいる。

また、教養娯楽用耐久財の売上の伸び率をみてみたい（図表5）。意外にもこちらは大きな増加がみられていない。携帯型音楽・映像用機器、カメラ、楽器などはいずれも大幅なマイナスである。

家庭用耐久財については、もう古くなったから買い替えをしなければいけないと感じる人が多いだろう。そうした感覚とは反対に、教養娯楽用耐久財のカメラやビデオデッキについては、「古くなったから急いで買い替えなくては」と思う人は少ないはずだ。駆け込み需要は、どうしても必要になると考えるものを対象になっている。だから、今買い替えておいた方がお得だという感覚になるのだろう。

駆け込み需要が目立たない教養娯楽用耐久財は、「どうせ買い替えておかななくては」と感じる度合いが小さいので、相対的に生じにくかったと考えられる。

もうひとつ、駆け込み需要が表れている分野に、住宅設備の維持・修繕がある（図表6）。外壁・塀等工事費、植木・庭手入れ代では、支出の伸び率が大きかった。これらは、住宅投資の駆け込み需要に反応する部分があるほか、先にみた「どうせ後々で必要になる」と考えて、今から手入れをしようという消費者心理が働いたのだと考えられる。

今後の消費動向

本稿は駆け込み需要についての分析をまとめたものだが、筆者の印象では、正直に言って駆け込み買いの勢いが強いとは思えない。少なくとも私の身近には駆け込み買いをする人はあまり目立たない。今回は、消費者が意外に冷静なのではないか。もちろん、3月末が近づくと、日用品では駆け込みがもっと目立つことは十分に考えられる。それでも、日用品の場合は前倒しで購入されるインパクトは1か月分くらいだろう。生活必需品は、5%の税率だろうが、8%の税率だろうが買わざるを得ない。

おそらく、4月以降の消費統計では、反動減が強く表れてくる。もしも、1～3月の駆け込み需要の盛り上がり相対的に小さいと、反動減は4・5月の両月で止まって、6月以降は早々にリバウンドの過程に移行する。そして、7～9月は新しい需要の水準を模索していくだろう。日本経済の行方は、消費税の影響を吸収して、2014年の夏以降に需要拡大のペースがどのレベルで安定軌道に乗れるかが焦点になる。

（図表5）教養娯楽用耐久財の名目支出額の伸び率

前年同月比%			
教養娯楽用耐久財	0.0	16.3	1.6
テレビ	25.9	49.8	47.6
携帯型音楽・映像用機器	-70.6	-30.3	-16.7
ビデオデッキ	-15.5	-34.4	-38.8
パーソナルコンピュータ	17.3	39.2	6.6
カメラ	-39.0	51.2	-47.5
ビデオカメラ	-2.3	-50.9	-76.8
楽器	-33.7	42.3	28.8
書斎・学習用机・いす	-20.5	-67.1	3.5
他の教養娯楽用耐久財	-27.8	-29.9	-7.6
教養娯楽用耐久財修理代	15.5	-6.1	62.7

出所：総務省「家計調査」

（図表6）設備修繕・維持の名目支出額の伸び率

前年同月比%			
	2014年1月	2013年12月	2013年11月
設備修繕・維持	36.5	20.7	9.4
設備材料	14.7	58.3	85.8
設備器具	19.1	62.1	48.7
修繕材料	-19.5	35.7	353.0
工事その他のサービス	50.2	8.5	-13.8
畳替え	-42.3	14.4	20.1
給排水関係工事費	-54.1	0.5	136.5
外壁・塀等工事費	199.6	-4.1	-35.1
植木・庭手入れ代	102.2	28.7	11.0
他の工事費	72.0	32.4	1.3

出所：総務省「家計調査」